

平成20年9月9日（火）

（午前9時32分 開議）

○議長（中上良隆君）おはようございます。

ただ今の出席議員数は23人で定足数に達しております。

○議長（中上良隆君）これより本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中上良隆君）これより日程に入り、
日程第1 会議録署名議員の指名 を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第81条の規定により、議長において10番 平林君、15番 石橋君の2人を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（中上良隆君）日程第2 一般質問 を行います。

順番7、22番 楠本君。

〔22番（楠本知子君）登壇〕

○22番（楠本知子君）皆さん、おはようございます。議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

子どもを安心して産み育てることができる環境整備をということで、5点質問をさせていただきます。

すべての女性が安心と希望を持てる社会をめざして、公明党女性委員会は女性を丸ごとサポートする政策を提案しています。その一つ、「命を育む喜びのために」の施策として、全国どこでも公費負担で5回以上の妊婦健診ができるように取り組むとともに、完全無料化を強くめざしています。この主張が大きく取り入れられ、先般、舛添厚生大臣は、「お金

のことを全く心配しないで妊婦健診も受けられ、分娩費用も出る施策を検討したい」と言われ、少子化対策として5回支給している妊婦健診の補助を14回に増やす意向を明らかにし、地方交付税として自治体に配分、約840億円の財源を入れると発表されました。

現在、橋本市におかれましては、皆さまもご承知のとおり、第1子、2子への公費負担は2回という全国最下位の状況です。早急に対策を講じていただきたいと、公明党和歌山県本部女性委員橋本支部を中心に署名活動、9月2日、木下市長に1万2,709名の署名された妊婦健診の公費負担の拡大を求める要望書を提出させていただきました。この要望書の市民の皆さまの声を強く受けとめていただきたいと思っております。

1番、第1子、第2子の妊婦健診の公費負担の5回以上は早急に実現をしていくべきと考えますが、いかがお考えですか。

2番、紀州3人っ子施策として、3人目以降の妊婦健診の費用は、ほぼ14回無料でできるとなりましたが、すべての金額を一旦立て替え、本人が支払って、出産後、領収書を添えて提出してから払い戻されるようになっております。後に払い戻されますとはいえ、一旦立て替えをしなければならないのは、経済的に負担があります。改善策についてお伺いいたします。

3番、周囲の人に妊婦への優しい配慮を促すため考案されたマタニティマークがあります。これまでマタニティマークは、自治体やNPOが独自で作成されておりました。統一マークがあれば認識が広がり、周囲の人に妊婦に配慮した行動がとってもらえると提案され、18年3月には統一マークが決定されました。

今年度予算で母子手帳とともに配布するための予算が計上されたことで、配布の動きがさらに全国に広がっています。また、マタニティの専用駐車場など、妊婦に優しい地域社会が推進されています。私は、橋本市の妊婦さんからの声をお聞きし、橋本市ではシールをいただいています但し利用していません。キーホルダーのようなのが使いやすいという声でした。妊婦さんの声を聞いていただいて、使ってもらえるようにしてはいかがでしょうか。また、マタニティ専用の駐車場の設置を提案したいのですが、いかがですか。

4番、ヒトT細胞白血病ウイルス1型(H T L V - 1)は、致死率が高い成人T細胞白血病(A T L)や、排尿、歩行障害を引き起こす脊髄疾患(H A M)の原因ウイルスです。約年間1,000人がA T Lで命を落としています、いまだに根本的な治療は確立されていません。このウイルスは、輸血や性交渉、幼少時に母乳を介して母親から感染します。この病気の恐ろしいのは、発症するまで潜伏期間が長いことです。自らがウイルス保有者と知らずに子どもを産み育て、その後、子どもに感染させてしまったことを知らされる母親の苦悩は言葉では言いあらわせません。もし妊娠中に感染していることがわかれば、母乳を与える期間を短くして子どもへの感染を防げたかもしれませぬ。妊婦健診時にH T L V - 1抗体検査の導入についてお伺いいたします。

5番、赤ちゃんを連れて外出した場合に大変なのは、おむつがえや授乳ができる場所を見つけることです。東京都板橋区では、保育園や児童館などの施設を「赤ちゃんの駅」に指定し、ミルク用のお湯入りポットを備え、おむつがえや授乳ができる場所として無料開放し、概ね3歳未満児を連れて保護者なら、だれでも立ち寄り利用できる場所があります。橋本市でも同様の事業実施を提案いたし

ます。

以上、1回目の質問といたします。よろしくお願ひいたします。

○議長(中上良隆君)22番 楠本君の一般質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長(森本健二君)登壇〕

○健康福祉部長(森本健二君)おはようございます。楠本議員の質問にお答えいたします。

第1子、第2子の妊婦健診の公費負担の拡大についてのおただしですが、6月議会でも答弁申し上げましたように、国は妊婦一般健診については、出産まで14回を想定しており、市には5回までの健診について財政状況に応じ公費負担することを推奨しております。

本市は現在、妊娠前期に1回、後期に1回の計2回について公費負担を実施しており、本年度より新たに県の紀州3人っ子施策事業の一つ、第3子以上の妊娠に係る妊婦健康診査費用の助成にも取り組んでいるところでございますが、平成21年度から妊婦健診費用の公費負担を現在の2回から5回へと拡充させてまいりたいと考えております。

次に、第3子以降の妊婦健診費用の支払い方法についてでございますが、出産後、規定の助成申請書に医療機関の証明及び領収書を添付して提出していただき、その後のご本人の口座に助成金を振り込ませていただくという方法をとっております。支払い方法の変更については、県にも確認をとらせていただいたところですが、変更は難しいとのことでございますので、現状でお願いしたいと思ひます。

次に、マタニティマークは、妊産婦が交通機関などを利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮をしやすくするという趣旨のものでありますが、健康課窓口においてポスターの掲示をするるとともに、母子手帳交付時に

すべての妊婦の皆さんに「マタニティマークを知っていますか」というパンフレットと、バッグ等に添付して周囲の人に妊産婦であることをアピールできるステッカーを配布させていただいております。また、「広報はしもと」を通じ、妊産婦以外の皆さんにも妊産婦への配慮をお願いする啓発を行っているところです。

次に、妊婦健診項目へのヒトT細胞白血病ウイルス1型の抗体検査導入についてでございますが、市内で行っている妊婦健診では、既にヒトT型細胞白血病ウイルス1型の抗体検査は導入されており、ほとんどすべての妊婦の皆さんが初回の健診で検査を受けておられます。

続いて、「赤ちゃん駅」の設置についてのおたただしですが、赤ちゃんを連れてのお母さんが安心して外出できるよう、乳幼児の授乳やおむつ交換ができるスペースを公共施設、民間施設に設けていこうという趣旨については大いに賛同するところです。しかしながら、授乳については、清潔なお湯の確保と安全面についての確認が必要という面から、現段階では先進地の取り組みの動向を見守ってまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君、再質問ありますか。

22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）ありがとうございます。それでは再質問、1番と2番をあわせてさせていただきます。

私は6月議会でもしつこく、また少子化対策としての妊婦健診の公費負担の拡大を質問させていただきました。そのときの答弁は本当にすごいショックを受けたんですけども、本市においては最重要課題の一つであると言われながらも、すべての子どもの出産につい

て、5回の妊婦健診助成は相当な費用がかかることから、行財政改革に取り組んでいる現状を勘案すると実施は非常に困難であると考えておりますという答弁だったんですけども、今回は市民の皆さまの要望書がすごく大きく取り上げていただけたかと思う答弁をいただきましてありがとうございます。一応、5回に対しては来年度から実施をしていただけるというふうにとらせていただいております。再度確認をお願いいたします。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）はい、そのとおりでございます。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）どうもありがとうございます。来年度からの実施に向けてよろしくをお願いいたします。

次に、そしたら3人目以降の方々の妊婦健診の費用は現状どおりの支払い方になるわけですか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）県にも一応問い合わせして、この制度につきましてもは県の制度でございます。それで、この制度についてこういうふうな話があるということで県のほうにも問い合わせをしたんですけども、今の要綱がそないなっているので、今の形のほうでやっていただけないですかということの回答でございました。ですけども、こういうような意見があるということにつきましては、県に対して市のほうから要望ということで、こういうような形で変更という意見も出ていますよということで、今後も県に対して要望していきたいと思っております。

以上です。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）3人目を産もうとされている方の妊婦さんは、やはり紀州3人っ子

施策ということで、費用に対して、せっかく3人っ子施策と出ているんですから、3人目を産んでくださいよという施策なので、やはり最初にいろいろ立て替えをしなければならぬというのものはものすごい負担ですというお声を多く聞いております。県との兼ね合いもあるとは思いますが、どうかまた、せめて5回までは3人目以降の方でも無料で公費負担ができるような形に変えていただけるように要望しておきたいと思っております。

次に、マタニティマークなんですけれども、橋本市では先輩議員が早くからこのマークの導入を言っていて推進していただいております。シールをかばんに張ったらどうと言われるんですけれども、なかなかかばんや衣服にシールをつけて歩くというのは、皆さん、しにくいというお声を聞きしているんです。今、バッジというのがすごくはやっているというか推進されて使われているのが多いんですけれども、調べましたところ、日本家族計画協会というところがこのバッジを推進しているんですけれども、約180の自治体、産科クリニックとかの注文が、今回、母子手帳とともに予算づけもあったというところでもすごく増えているんです。値段なんですけど、いくらかかるんですかというふうにお聞きさせてもらったら、一つ130円なんです。500個以上固めて買うと110円になるそうなんです。せっかくおめでたというか、めでたいときに妊婦さんに110円のプレゼントをしていただけたらと思うんですけれども、すごい費用でもないと思うので、110円をバッジにつけていただくというのは、自分が妊娠していますよというのは、やはり自分のほうからはアピールできないので、おなかが大きくなって初めて、ああ、妊婦さんやなということがわかりますけれども、それまでという

のは自分が妊婦であるかどうかアピールはできませんので、そういうバッジがあるともので、すごくありがたいというお声もたくさんいただいておりますけれども、その辺いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）今言ったキーホルダーみたいなバッジみたいなということですか、金額が110円ぐらいなので、一応うちの担当課といっぺん協議いたしまして、予算の範囲の中で買えるかどうか協議して検討してまいりたいと思っております。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）どうぞよろしくお願ひいたします。あまり大きな負担ではないので、それでまた妊婦さんもすごく喜ばれると思います。

それと、妊婦さんのマタニティマークの駐車場なんですけれども、身体障害者のマークのところの駐車場に妊婦さんが置かれるというのを聞きしているんです。そうしますと身体障害者の方が駐車に來られたときに、何で妊婦さんの方が勝手に置いているんよというふうに、そういうふうなお声も聞いておりますので、やはりマタニティマークをつけた駐車場を、駐車場も大変狭い中で大変やと思います。たとえ1箇所だけでもそういうマークをつけていただいた駐車場をつくってほしいというお声を聞きしているんですけれども、身体障害者のところへ黙って置かれても、やっぱり身体障害者の方も気分悪いやろうと思いますし、マークを一つつけていただくことによって、たとえ1人でも来庁されたときにそこに置きやすいという状況があると思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）今、議員おた

だしの件につきましては、非常に大切な問題かと思っております。ただ、現在、市役所の駐車場は大変ご存じのとおり手狭であり、身体障害者の駐車スペースを今4台確保するのが精いっぱい状況であると聞いております。それで、妊産婦のためのマタニティ駐車場については、先のことを言うて申しわけないんですけども、健康福祉センター建設に向けて、今、取り組んでいるところでございます。そういうことで、駐車場を確保できたら、そういうようなマタニティマークということで確保もできると思います。ただ、今そういうような形でありますので、もう一度うちのほうで再検討させていただいたら、1台でもということであれば検討させていただいて前向きに取り組んでいきたいと思っておりますので、ご了承よろしく願いしておきます。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）そうしましたら、庁舎の場合は、やはり駐車場が狭いというのは私自身もよく思っているのですが、新たにつくるのは大変かなとは思いますが、併用マークをつけるとか、また考えていただけたらと思うんです。今度建てられる母子総合福祉センターには必ずそういうマークの駐車場をよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、4番の「赤ちゃんの駅」ということなんですけれども、最初、赤ちゃんの駅と聞かれて何かというふうに思われたかもわからないと思うんですけれども、東京の板橋区では、この赤ちゃんの駅というのがありまして、児童館37館、区の保育所45園、親子交流センター2箇所ということで123施設設置されているんです。また、埼玉県本庄市なんかでも、公民館や保育所など市の施設で35箇所、今後税務署や県民センター、公共施設、商店、市立保育園など合わせて70箇所以上設置をする予定というふうに、多分自治体では非常に

この赤ちゃんの駅というのが進んでいるんです。なぜかという、やはり小さい子どもさんを連れて外出をするときに、トイレではなくて授乳もできておむつがえもできるという、そういう施設があるとすごく外出しやすいというふうになるんです。例えば外出した際に、自分のほうからそういうところを貸していただけませんかと言ったら、多分貸してくれると思うんです、そういう公共施設であれば。でも、そういうふうに指定をしてあるところがたくさんありますと、自分からそういうふうには言わなくても、ああ、ここはそういうところができる場所だというふうに思っただけで外出をするのと全然気持ちが違うと思うんです。大きく外出が進むし、子育て真っ最中のお母さん方が気軽にいろんなところへ出かけることができると思うんです。これもそんなに費用は何も本当にかからないんですよ。そういうおむつをかえる場所と、母乳の方は母乳を飲まされるし、母乳でない方は少しお湯をいただけたらということなんです。この6月に海南市が3箇所そういう施設をつくったのを見させてもらったんですけども、本当にお金は何もかかってないんです。今ある場所を利用して、そこにどうぞ立ち寄ってくださいよというふうな施設なんです。ただ、「赤ちゃんの駅」というふうな名前がつけられているので、そこに気軽に立ち寄れる、途中何かあったときにちょっと立ち寄っておむつがえができたり授乳できたりという場所なんです。だから、橋本市でもファミリーサポートセンターであるとか、いろんな公共施設とか保育所とかがありますので、そういうところら辺に赤ちゃんの駅という形でつくっていただけたら、お子さん連れのお母さんが気軽に立ち寄ることができると思うんです。本当にお金のかかる施設ではありませんので、またいろいろほかのところを見ていただけてつくっ

ていただけたらというふうに思うんですけれども、いかがですか。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）今、議員おただしの、先ほど答弁させていただきましたけれども、民間施設等に設けていこうという趣旨については大いに賛同するところでございます。先ほども言いましたように、清潔なお湯の確保の問題については、赤ちゃん連れのお母さん自身がミルクを持参しておられる場合についてはハードルが低くなってやりやすい面もあります。今後、先ほども答弁させていただきましたけれども、先進地の取り組みを勉強しつつ、本市でもできる取り組みについて考えてみたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）そうしましたら、近くに海南市でもやっておりますので、また一度見に行ってみてください。すごい簡素なところで結構皆さん喜んで利用されていますので、いっぺん見に行ってみてください。市長が言われますように、住んでよかった橋本市、住んでみたい橋本市になるには、やはり子育ての環境づくりが一番大切やと思うんですけれども、最後に市長、コメントいただきましたらよろしく願いいたします。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）楠本議員の再質問にお答えしたいと思います。

私も勉強不足で、赤ちゃんの駅といったら、これはどないするんかいなと思って、初めて認識を新たにしたところであります。先ほどの質問から、経費も膨大にもかかりませんし、ただ、私はぽっと置くと、これは薬物を混入されたら大変なことになるなどか、いろいろ慎重に対処していかなければならないと思

ますけれども、少子化という対策で、やっぱりそういうことはできるだけ理解をし合って、そして各商店の大きいところ、スーパーとか、そういうところにも呼びかけをしたり、まず最初に、行政は中心的に寄る公共施設、そういうところへしていくべきだと思っております。いつからするかということですが、ちょっとしばらくの猶予をいただいて、いずれにしても前向きに考えてみたいと思います。

○議長（中上良隆君）これをもって、22番 楠本君の一般質問は終わりました。